

自然と遊び、 自然に学ぶ



この春に、我が家の次女が4年間過ごした「たけの子」を卒業します。この4年の間に娘は心身共に成長し、とてもたくましくなりました。

入園当時、娘は手にハエがとまっただけで泣いてしまうような弱い女の子でした。それもそのはずです。米沢に来る前は郡山市で生活していたのですが、原発事故の影響を心配していた私はほとんど外遊びをさせていませんでした。葉っぱやお花を摘んだり、石ころを拾っていいのは、どこか遠くへ保養に行った時だけ…。「おそとはどくどく(放射性物質)があるからさわっちゃだめなんだよねー、ママ!」というのもログセのように言っていました。本当はたくさん自然に触れたかったと思います。たった2歳の子どもにこんな事を言わせなくてはいけないなんて。子どもが外で遊ぶ、そんな当たり前のこともさせてあげられなくて本当に悔しくて申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

そんな思いもあって米沢に引越したら思い切り外で遊ばせてあげたい!と考えていました。ちようどその頃、たまたま知り合った方に「米沢で外保育をしている所がある」と教えてもらいました。なんとというタイミング…。わたしは主人に相談もせず、すぐに連絡を入れました。あつという間に「たけの子」への入園が決まり、そこから娘の生活環境は180度変わっていききました。

娘は私から離れて過ごすのは初めてでした。最初のうちは私の姿が見えなくなると、わんわん泣きながら追いかけてきて先生達に取りおさえられていましたが、1週間も経つと首から虫かごをぶら下げさつさと草むらの方へ…。こつちのほう

がさみしくなってしまうましたが、それと同時に子どもってすごい!と感心させられました。ハエを見ただけで泣いていた娘がたった1週間で虫取りに夢中になっていくのですから。これが本来の子どもの姿なんだな、と思ううれしくて涙が出ました。

たけの子にはきれいに整備された遊び場や遊具がありません。そのかわり、さまざまな道具を自由に使うことができます。「あぶないから触っちゃダメ」なんて誰もいません。ノコギリやナイフを駆使して工作している姿を見た時は正直ひやひやしましたが、大人が手を貸す事はありません。子どもが最後まで自分でやるのです。手伝ってもらえないので、途中で諦めてしまう事もあったと思いますが、そうやって「自分はどこまでやれるのか」という事を自然と学んでいくのだと思います。「きのうできなかったのに今日は〇〇できた!」と、よく嬉しそうに話をしていました。

毎日どろんこになった着替えを持ち帰り、手足の爪はまっ黒。買ったばかりのズボンを1日でダメにしてきた事もありました。お土産にはおたまじゃくしやへびの皮、ダンゴムシにカナチョロ。お散歩で見つけたと言って、きれいな花束ももらいました。リュックの中には大事そうに石ころがいくつも入っていたり、クワガタの頭や鳥の羽が出てきたり…。娘にとってはどれも大切な宝物だったと思います。

たけの子に通うようになってから娘の感受性がとても豊かになったな、と感じています。体が丈夫になった事は言うまでもなく、小さな生き物に対しての優しさ、自分以外の人間に対する思いやり、日常のちよつとした事への関心の高さ。娘だけではありません。たけの子の子ども達はみんな本当に子どもらしくのびのびと育っているなと思います。大切な幼少期をたけの子で過ごすこ

とができて、本当に良かったと思います。ここで過ごした4年間というのは、娘のこれからの人生のほんの一部分でしかありません。ですがこの4年で得た経験は彼女にとっての基礎になつてくれる事でしょう。この先いろんな壁にぶつかった時、たけの子での事を思い出して欲しいなと思います。きつと乗り越えていけると信じています。4月からは小学生。今までの環境とまたガラッと変わってしまいますが、これまで培ってきたたけの子パワーで毎日元気に過ごしてほしいと思います。

この場をお借りして、これまで子ども達を温かく見守って頂いたスタッフの方々、ご近所の方々、毎日一緒に遊んでくれたお友達、ボランティアに来て頂いた方々、保護者の皆さん、たけの子を支援して下さいますべての方々に感謝いたします。どうもありがとうございます。 下山田菜穂子

寄付や支援をいただいた方々 2月 順不同

支援金 渡部鋭幸 様 土田英順 様

認定こども園めぐたま 様

岩戸五郎 様

大根、白菜 手塚すみ子 様

ジュース、うどん 森雅英 様

りんご ブナマルチャリティー 遠藤裕紀子 様

カブ 伊藤 様

梅干し、梅酢、味噌 こつちからネット 廣岡菜摘 様

ボランティア 大沼莞菜 様 斧三月 様

